

令和4年度

菰野町教育委員会

事務事業点検及び評価報告書

令和5年8月

菰野町教育委員会

目 次

I	令和4年度点検及び評価実施方針	1
	1 趣旨	
	2 点検及び評価の対象	
	3 点検及び評価の方法	
II	教育委員会の運営状況	
	1 教育委員会	2
	2 令和4年度菟野町教育方針	4
	3 事務局体制	4
III	事務事業の執行状況	
	1 学校教育	
	(1) 確かな学力を育む教育の推進	5
	①主体的・対話的で深い学びの実現	5
	②特別支援教育の充実 ③グローバル教育の推進	6
	④ICTを活用した授業の充実 ⑤キャリア教育の推進	7
	⑥幼児教育の充実	7
	(2) 豊かな人間性を育む教育の推進	8
	①人権教育・道徳教育の充実 ②安心して学べる学校づくり	8
	③読書活動の充実	9
	④郷土教育の推進	10
	(3) 健やかな体を育む教育の推進	10
	①健康教育の充実 ②体力の向上	10
	③食育の推進	11
	(4) 信頼される学校づくり	11
	①地域とともにある学校づくりの推進	11
	②教職員の資質向上とコンプライアンスの推進	12
	③学校における働き方改革の推進 ④子どもたちの安全・安心の確保	12
	2 社会教育	
	(5) 地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実	15
	①家庭の教育力の向上 ②地域における青少年活動の推進	15
	③現代社会を生き抜く青少年の健全育成	15
	(6) 活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進	16
	①生涯学習推進体制の確立	16
	○生涯学習推進事業 ・よもやま歴史教室 ・かもしかライフカレッジ	
	○教育委員会主催人権教育事業 ○教育委員会主催文化事業	
	○教育委員会支援文化事業 ○国際交流事業	
	②公民館機能の充実 ○公民館教室及び講座	18
	③図書館サービスの充実	19
	ア)図書館事業 イ)催事室利用状況 ウ)ギャラリー利用状況	
	エ)令和4年度図書館貸出等の状況 オ)研修等の受け入れ実績	
IV	評価委員会の意見	25
	資料編	

I 令和4年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、菰野町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」）を実施する。

2 点検及び評価の対象

令和4年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況のうち、令和4年4月1日から令和5年3月31日までに実施したものとする。

3 点検及び評価の方法

(1) 自己点検評価

菰野町総合計画を踏まえた菰野町教育大綱、菰野町教育振興基本計画及び令和4年度菰野町教育方針に基づき、令和4年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検及び評価を行う。

(2) 学識経験者等の知見の活用

菰野町の教育に関して知見を有する次に掲げる者から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

(知見者)

氏 名	職業（前職含む）
小 林 浩 司	建設会社社長
伊 達 恭 子	元小学校長

(3) 議会への報告

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに町ホームページへの掲載等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、教育長と4名の教育委員により委員会を開催し、規則等の制定や生徒指導事案など重要な案件を審議した。また、研修会への参加や、視察研修を実施するなど、委員の資質向上に努めるとともに、学校訪問を実施し、学校運営の状況などについて現地で説明を受け、指導及び助言を行った。更に総合教育会議において、教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議を行った。

(1) 委員構成

役職名	氏名	住所	任期
教育長	北口 幸弘	菰野	平成31年4月1日就任 令和7年9月30日まで
教育長職務代理者	石倉 雅孔	大羽根園	平成30年10月1日就任 令和8年9月30日まで
委員	岡島 由香里	田光	平成21年10月1日就任 令和7年9月30日まで
委員	近藤 保則	池底	平成28年10月1日就任 令和5年9月30日まで
委員	水谷 裕康	竹成	令和2年10月1日就任 令和6年9月30日まで

(2) 教育委員会の開催状況

開催数： 定例会 11回

(3) 委員研修状況

実施日	研修先	研修場所	研修内容
8月30日	菰野町	オンライン研修	講演会 「初等中等教育施策の動向」等
10月28日	津市	三重県男女共同参画センター 「フレンテみえ」	三重の教育談義 「今、求められる人材の育成と組織づくり」
11月11日	羽島市	はしまなごみスポーツクラブ	中学校部活動に係る地域移行の仕組みについて

(4) 学校訪問

- ・(前期) 6月28日 菰野小、菰野中、竹永小、鶴川原小
- ・(後期) 10月31日 朝上小、八風中、千種小

(5) 総合教育会議

① (第1回) 6月24日

- コロナ禍における学校運営について
- ICT活用について
- 中学校部活動の地域移行について
- 給食費の公会計化について

②（第2回） 3月29日

- コロナ禍における学校運営について
- 小中学校の児童生徒の問題行動等の現状について
- ICT活用の現状について
- 中学校部活動の地域移行の今後の取り組みについて

(6) 委員会の主な審議内容

① 第5回教育委員会（R4.4.28）

- 令和4年度菰野町奨学金貸付について
- 令和4年度菰野町学校運営協議会委員委嘱について
- 私立高等学校振興助成金交付要綱の一部を改正する告示について

② 第6回教育委員会（R4.5.25）

- 菰野町議会第2回臨時会の上程議案について
- 菰野町教育委員会教育行事の後援に関する規程の一部を改正する告示について
- 菰野町教職員研修協議会補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町修学旅行引率等補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町児童会・生徒会補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町キャリア教育事業補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町各種大会生徒派遣補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町PTA連絡協議会補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町学校給食検討会設置要綱を廃止する告示について

③ 第7回教育委員会（R4.6.24）

- 菰野町議会第2回定例会の上程議案について
- 菰野町非核平和啓発生徒派遣補助金交付要綱の一部を改正する告示について

④ 第8回教育委員会（R4.7.20）

- 一般会計補正予算の要求について

⑤ 第9回教育委員会（R4.9.16）

- 菰野町議会第3回定例会の報告について
- 菰野町特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町立学校における防犯カメラの管理及び運用に関する要綱の制定について

⑥ 第10回教育委員会（R4.10.3）

- 仮議席の指定について
- 教育委員会教育長の職務を代理すべきものの指名について
- 菰野町教育委員会の議席の決定について

⑦ 第11回教育委員会（R4.10.31）

- 菰野町第4回臨時会の報告について
- 第3回市町等教育長会議について

⑧ 第12回教育委員会（R4.12.21）

- 令和4年菰野町議会第4回定例会の報告について
- 菰野町教育委員会への事務委任に関する規則について（報告）
- 菰野町立小学校及び中学校における学校外通学に関する要綱の制定について
- 菰野町立小学校及び中学校における区域外就学に関する要綱の制定について

⑨ 第1回教育委員会（R5.1.16）

- 菰野町立小中学校卒業式告辞について

⑩ 第2回教育委員会（R5.2.27）

- 菰野町教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則について

- 教育委員会事務管理執行規則の一部を改正する規則について
- 菰野町キャリア教育事業補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町私立高等学校振興助成金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町就学援助費交付要綱の一部を改正する告示について
- 令和5年度菰野町学校教育指導方針について
- 校長・教頭等異動内申について
- 教諭等異動内申について
- 令和5年度「菰野町ふれあい教室」運営要項について
- 令和5年度いじめ不登校対策事業について
- 菰野町特別支援教育巡回コーディネーター配置要項について
- ⑪ 第3回教育委員会（R5.3.29）
 - 菰野町立学校における独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の徴収に関する規則の制定について
 - 菰野町立学校における防犯カメラの管理及び運営に関する要綱の一部を改正する告示について
 - 菰野町特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する告示について

2 令和4年度菰野町教育方針

(1) 学校教育

「新しい時代をたくましく生きる子どもの育成」

・小中学校【資料2】

教育課題を的確にとらえ、子どもを主体にした創意ある教育課程の編成に努め、家庭、地域社会との確かな連携のもと魅力ある教育活動の推進を図る。

・幼稚園

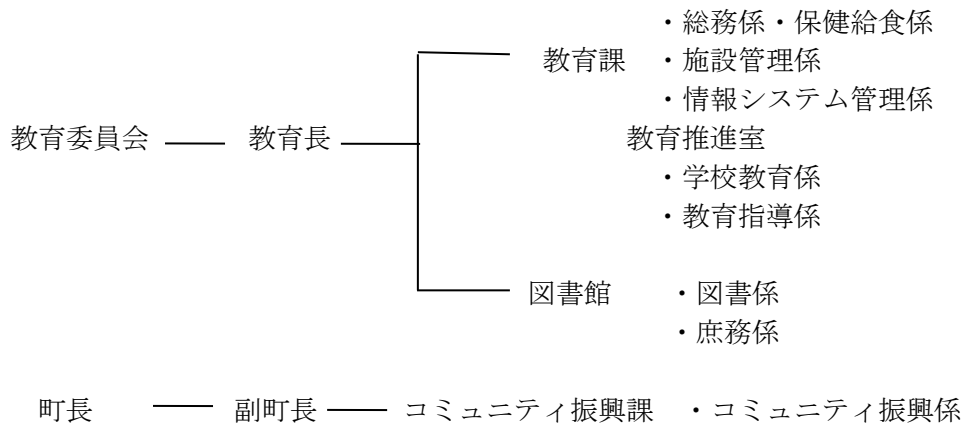
自発的な活動と遊びを通して、総合的な指導により人間形成の基礎を培う。遊びを中心とした生活を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度が身につくようにする。

(2) 社会教育

「生涯学習の理念に基づいて幼児期から高齢者に至るすべての住民に少しでも多くの学習の場と機会を確保しながら健康で心豊かな人づくり、地域に根ざした町づくりの実現に努める。」

3 事務局体制

(1) 事務局組織【資料1・9】



(2) 職員数の状況（常勤職員）

R4.4 現在

課名	課長	室長 企画監	館長 (心得)	室長 補佐	係長 副主管	係	会計 年度 任用	その他 (ALT)	合計
教育課	1	1		2	3	4	3	2	16名
図書館			1			2	9		12名
コミュニティ 振興課	1	1			3	4	1		10名

(3) 外部職員数【資料4】

(4) 教育予算の推移（決算）

*学校教育には教育総務費、奨学金、幼稚園費を含む

*社会教育には文化財関係費、スポーツ関係費を含む（単位：千円）

区分	H30	R1	R2	R3	R4
学校教育	969,522	1,352,084	1,058,235	1,188,980	1,111,173
社会教育	634,063	234,730	259,207	197,469	192,246
図書館	81,504	76,112	81,289	84,088	77,858
合計	1,685,089	1,662,926	1,398,731	1,470,537	1,381,277
町一般会計	12,487,879	12,517,061	17,645,081	15,021,599	14,105,267
教育費割合%	13.5%	13.3%	7.9%	9.8%	9.8%

III 事務事業の執行状況

1 学校教育

(1) 確かな学力を育む教育の推進

① 主体的・対話的で深い学びの実現

きめ細かな個に応じた学習指導の充実を図るため、非常勤講師を町単独で各学校に配置し、小学校3年生～6年生の算数科と、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で少人数指導を継続的に行っている。

小学校6年生と中学校3年生を対象に「令和4年度全国学力・学習状況調査」が実施された。調査問題には、子どもたちに「どのような資質と能力を身に付けなければならないのか」、そのために「どのような授業を行えばよいのか」を示すメッセージとなる問題が出題されている。各校は、調査問題の分析、調査結果からみられた課題（子どもたちがどこでつまづいているのか）の分析を実施し、学習指導の改善及び充実の取組を推進した。

小学校4年生と5年生、中学校1年生と2年生を対象に「みえスタディ・チェック」を実施し、各校は、調査結果からみられた課題の分析を行い、学習指導の改善と学習内容の確実な理解と定着を図る取組を進めた。また、三重郡内の小中学校では標準学力検査（CRT検査）を小学校4年生と中学校1年生を対象に継続的に実施しており、検査結果を三重郡教育振興会学校教育部会で分析し、児童生徒の学力の定着状況を把握し、各校の指導方法の工夫及び改善につなげた。

教職員の授業力向上については、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組が各校において推進されるよう、授業づくりのポイントをまとめたリーフレット「菰野町授業づくりマスター」を全教職員に対して配付し、浸透を図っている。令和4年度は「この1時間の授業の中で何ができるようになってほしいのか」を「めあて」の形で示すことを徹底する指示を出し、児童生徒が「わかった」「できた」という実感が持てる授業改善の取組のさらなる推進を図った。

菰野町は「全国学力・学習状況調査」から国語科の学力状況に経年的な課題がみられる。令和4年度は三重県教育委員会の支援を受けて、学習指導要領が示す資質や能力を育成する国語科の授業づくり研修を各小学校で行った。また、令和3年度より竹永小学校において県の「ICTを活用したわかる授業推進事業」を受け、三重県教育委員会と連携しながら算数科における習熟度に応じた1人1台端末を効果的に活用した指導方法についての研究を行った。

② 特別支援教育の充実

特別な支援が必要な児童生徒について、各校で校内特別支援委員会を組織し、校内コーディネーターが中心となり、児童生徒への支援のあり方について組織的に検討した。今年度は、町内に2名配置している菰野町特別支援教育巡回コーディネーターの内、1名を会計年度任用職員として任用し、授業等に縛られない柔軟な運用のもと、各学校への助言を行った。対象児童生徒については、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成したうえで適切な指導及び支援を行った。また、特別支援教育支援員20名を各学校の状況に応じて配置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒への支援にあたってきた。さらに、子ども家庭課とも連携し、個別の指導や支援が必要と思われる児童生徒について、みえ発達障がい支援システムアドバイザー（支援センターあさけ）に助言を求めたり、アドバイザーが対象となる児童生徒へ直接対応したりすることで、学校での指導及び支援に活かしてきた。

菰野町立の小学校に在籍する発達障害のある児童の学習上または生活上の困難を改善及び克服するために、令和2年度に竹永小学校に通級指導教室「ほっとルームたいよう」を開設した。令和4年度は12名の児童が「ほっとルームたいよう」での通級指導を受けた。また、通級指導に関して高い専門的知見や経験を有する者を通級指導教室アドバイザーとして配置し、通級指導担当教員への助言や援助を行い、発達障害のある児童への指導や支援の専門性の向上と通級指導体制の改善を図った。

特別支援学級在籍児童生徒への指導及び支援については、校内研修会等で全教職員が授業を参観し情報を共有したり、菰野町巡回コーディネーターが訪問し、指導及び支援のあり方について助言したりしてきた。また、34名の介助員を学校の状況に応じて配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒への支援にあたってきた。

菰野町就学支援委員会では、対象となる園児、児童及び生徒の観察や聞き取りを行い、あわせて保護者の就学相談も行うことで、子どもや保護者のニーズに合ったよりよい就学支援を目指している。

③ グローバル教育の推進

小中学校の外国語教育の充実を図るために、ALT（外国語指導助手）2名を小中学校に派遣し、子どもたちがネイティブの英語音声に親しみ、発音を習得する機会の確保に努めた。

小学校5年生と6年生の外国語科の授業において、学習指導要領に示された外国語科の目標及び英語学習の特質を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域別に設定された目標の実現をめざした指導

が小学校において行われるために、三重県教育委員会の支援を受けて、CAN-DO リスト（学習到達目標）に基づいた言語活動を重視した英語授業の研修を実施した。

中学校では、菰野中学校において県の「三重県英語教育改善プランに係るパフォーマンステスト研究・開発」事業を受け、三重県教育委員会と連携しながら児童生徒の英語力を向上させるために、生徒の学習改善や教師の指導改善につながるパフォーマンステストの適正な実施方法や評価方法について調査研究を行った。

④ ICT を活用した授業の充実

各学校が ICT を活用した教育の考え方や進むべき方向性について共通のビジョンを持ち、効果的な活用方法を模索しながら教育の質の向上を図っていくために、国の GIGA スクール構想の方針を踏まえた「菰野町学校 ICT 教育推進計画」を策定し、各校に示している。

また、義務教育 9 年間に獲得すべき情報活用能力をまとめた「学年別情報活用能力段階表」や必修化されたプログラミング教育が小学校において確実に実施されるために発達段階に応じた「プログラミング学習教材系統表」を各学校に示している。各校はそれらに基づき、情報活用能力育成のための年間指導計画を作成し、見直しをもちながら情報教育を推進している。

各校が ICT 環境を安定的に維持することができるよう「学年別情報活用能力段階表」や「1 人 1 台端末使用上の約束」、「健康に関する指導」、「紛失・故障・破損等の対応」等を取りまとめたガイドブックを作成し、各学校に配付・周知を行った。また、年間を通して情報担当者会議を開催し、ICT の環境整備や活用方法について協議を重ねた。

菰野町では、児童生徒 1 人 1 台端末に学習者用デジタル教科書を導入している。三重県教育委員会の支援を受けて、学習者用デジタル教科書を授業のどの場面でどのように活用するとよいのか、紙の教科書とどう組み合わせるとよいのか、児童生徒の家庭学習等にどのように役立てるとよいのか等、学習者用デジタル教科書の効果的な活用のあり方について学ぶ教職員研修会を実施した。また、ICT 支援員を各学校へ派遣し、教職員と児童生徒への ICT 機器等に関する技術面等のサポートを行った。

また、情報発信による他者や社会への影響、インターネット上のルール等を守ることの意味、情報には自他の権利があること、情報には誤ったものや危険なものがあることについて考え、適正に情報を活用することについて学ぶ情報モラル教育を推進した。

⑤ キャリア教育の推進

各教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して、かつ他の教育活動とのバランスに配慮しながら、汎用性のある学力、コミュニケーション能力、忍耐力、規範意識、マナー、働く者の権利や義務についての理解、男女共同参画を重んずる態度等、社会的、職業的自立に必要な能力の育成を図った。特に中学校においては、子どもたちが望ましい勤労観や職業観を持ち、主体的に進路を選択する能力を身につけていくことをめざし、外部講師を招いてのマナー講座や職場体験学習を実施した。

⑥ 幼児教育の充実

就学前教育と保育の両方を提供する幼保一体施設の運営を継続して行い、町内全ての小学校区で保護者のニーズに寄り添った就学前教育及び保育、幼児教育の充実に努めた。幼保一体化幼稚園を含めた全ての幼稚園において 3 歳児保育を実施している。

各中学校区の校園長会議や子ども支援ネットワーク会議の中で、保幼小中の連携を

目的とした研修会をもち、学校や園の状況、教育課題等についての共通理解を深めることができた。また、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、保幼小の相互の活動を園児と児童が体験したり、職員が参観したりすることで交流を行ってきた。

今後は、子ども家庭課と連携しながら、園と小学校の子どもたちの具体的な姿をもとに教育方法や指導計画について意見交換をする機会等を設け、園と小学校との円滑な接続を一層図るよう努めていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

① 人権教育・道徳教育の充実

人権教育では、各学校が策定した「人権教育推進計画」に基づき、子どもたちの人権尊重の意識と実践力を養うため、教科等指導や生徒指導、学校経営などの教育活動全体を通して、一人ひとりの存在や思いが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」をめざし、町内すべての小中学校で、子どもたちの発達段階に応じた「人権教育カリキュラム」を作成し取組を進めた。

また、人権意識を培うための学校教育のあり方について、三重県教育委員会人権教育課と連携し、菰野中学校区において「子ども支援ネットワーク・アクション事業」に取り組んだ。事業では、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向けて子どもたちが地域住民と共に考える場を設定し、幅広い観点から人権教育に関する指導法等の改善及び充実に努めた。令和4年度の三重郡人権・同和教育研究協議会研究推進校である菰野小学校、八風中学校において研究発表会が開催され、鈴鹿市人権教育アドバイザーと三重県教育委員会北勢教育支援事務所指導主事を招き、先生方とともに研修を深めた。

道徳教育では、各校において学校や子どもたちの実態に基づき、道徳教育の全体計画等を作成し、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を実施した。各教科や総合的な学習の時間及び特別活動等においては、それぞれの特質を生かしながら、生命を尊重する態度、我が国の伝統や文化、郷土を愛する心等、子どもたちの道徳性が養われる教育活動を推進した。

道徳科においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を子どもたちに育成するために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的及び多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりする学習場面を重視した授業を推進した。

また、子どもたちの日常的に情報機器を用いる環境に対応するため、道徳科の授業において、情報機器等は便利である一方、使い方によっては違法行為や他者を傷つける等、人間関係に負の影響を及ぼすこと等について子どもたちが考えを深めることができる情報モラル教育の充実に努めた。

② 安心して学べる学校づくり

学校においてはすべての子どもたちにとって居心地の良い学校となるように、子どもたちに対する観察と教育相談に加えて、hyper-QU 子どもたちの内面を知ることのできる「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（調査）」を実施するなど、さまざまな観点から子どもたちの実態を把握し、日常の学級指導や特別活動などにおいても集団づくりの取組を進めた。

児童生徒の悩みを積極的に受け止めることができるようにするため、令和4年度もスクールカウンセラーや生徒指導推進協力員、スクール相談ネットワークを町単独で配置し、生徒指導體制の確立に努めた。学校内の巡回や問題行動等の予兆の早期発

見、未然防止、保護者への支援等の取組を進めてきた。各校の状況をスクール相談ネットワークと情報共有し、子ども家庭課や児童相談所、四日市西警察署、三重県教育委員会のスクールソーシャルワーカーや生徒指導特別指導員等の関係機関と連携して、適切な指導に努めた。

また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校教育に携わるすべての関係者がいじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応するよう、学期に1回以上のアンケート調査や個別面談等により、いじめの早期発見、早期対応に努めた。いじめ問題の根本的な解消に向けて子どもたちの人権感覚を高め、思いやりの心や個性を認め合う力を育成し、さらには違いを多様性として理解する力を培い、「いじめを許さない心」を育むとともに「いじめを許さない」「見て見ぬふりをしない」ことが自然で当然な価値観とされるよう取組を進めた。また、情報モラル教育やリスク管理を推進するとともに、教職員や保護者等の情報技術に対する対応力の向上を図り、いじめを含むネットトラブルの未然防止や早期発見、早期対応にも努めた。

さらに、菰野ふれあい教室を町単独事業として「三重県民の森ふれあいの館」で週3回、指導員2名体制で実施した。令和4年度は小学生7名と中学生8名が入級した。個別指導を中心に基礎学力定着のための学習支援に努めるとともに、教育相談セラピストも年15回派遣し、不登校児童生徒（保護者を含む）の相談に応えてきた。

教育委員会事務局に非常勤の教育相談員を配置し、教育相談にあたってきた。令和4年度は、面談19件（来所17件・巡回1件・訪問1件/昨年度計29件）、電話による相談0件（昨年度1件）となっている。相談内容の主なものとしては、不登校の問題や学校生活への適応を含めた学業や進路について等であった。なかでも相談内容として一番多かったのは、個別の指導や支援が必要な児童生徒についての相談で、カウンセラーや子ども家庭課と連携して発達検査も実施しながら支援の方向を考えたものは44件あった。

不登校児童生徒数は、小学校で41名（前年度18名）、中学校で62名（前年度34名）と、小学校で23名、中学校で28名の増加となった。特に、両中学校の1年生と菰野小学校の低学年の増加が目立った。不登校の原因は種々様々であるが、聴き取りによる主たる要因は「無気力」であった。はっきりとした根拠はないが、コロナ禍による出席停止など児童生徒にとっても保護者にとっても学校に行かないという選択肢が容易に得られるようになったことも原因ではないかと考えられる。スクール相談ネットワークや菰野ふれあい教室指導員が学校の不登校対策委員会に出席するなど学校と連携し、また各学校においては関係機関等と情報の共有を図りながら指導及び支援にあたってきた。

（町不登校児童生徒数）

人、（ ）内は%、R4は暫定値

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	16(0.68)	17(0.71)	18(0.76)	16(0.67)	18(0.74)	41(1.69)
(全国平均)	(0.54)	(0.70)	(0.83)	(1.0)	(1.3)	
中学校	47(4.09)	43(3.78)	46(4.05)	40(3.56)	34(3.0)	62(5.46)
(全国平均)	(3.25)	(3.65)	(3.94)	(4.09)	(5.3)	

③ 読書活動の充実

読書活動を通して、子どもたちの感性を磨き、表現力や想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけさせる等の豊かな心の育成に取り組んできた。また、読書活動は主体的な学びや読解力、言語能力、創造力を育む重要な学習活動であ

る。学校においては、一斉読書や読み聞かせ、家庭読書の啓発に努めた。

平成 28 年度より町内すべての小中学校へ菰野町図書館司書が月 2 回の巡回訪問を行い、菰野町図書館と学校が連携し、学校図書館の環境整備に努めている。子どもたちが新しい情報に触れることができるよう、刊行後の時間の経過とともに古くなった情報が記載された図書等については、環境、キャリア教育、情報化社会等に関する図書を中心に、計画的に更新を行っている。また、文学や読み物漫画に偏ることなく、自然科学や社会科学等の分野の図書資料の割合を高める等、子どもたちや教職員のニーズを把握しながら、調和のとれた蔵書構成になるよう選定に努めている。

(学校図書館の整備状況)

R5.3

	実学級数	図書標準数	R4 年度末蔵書数	達成率
菰野小学校	40 学級	13,060 冊	18,368 冊	1.406
千種小学校	14 学級	8,760 冊	10,379 冊	1.184
朝上小学校	15 学級	9,160 冊	13,617 冊	1.486
鵜川原小学校	12 学級	7,960 冊	10,804 冊	1.357
竹永小学校	18 学級	10,360 冊	11,549 冊	1.114
菰野中学校	24 学級	15,520 冊	17,181 冊	1.107
八風中学校	13 学級	11,200 冊	15,739 冊	1.405

④ 郷土教育の推進

自分たちが育ってきた地域を大切に守っていこうとする心や地域に貢献しようとする態度を養う等、郷土について考える機会を充実させていくために、地域の教育資源を活用したり、「わたしたちのまち菰野町」（小学校社会科副読本）を活用したりして、「郷土を知り、郷土から学ぶ」学習活動を推進した。これらの学習活動には、各校の学校運営協議会（菰野町コミュニティ・スクール）の取組とも関連づけながら、郷土教育を実施することができた。

(3) 健やかな体を育む教育の推進

① 健康教育の充実

子どもたちが自分自身を価値ある存在と認めて自分を大切に思う自尊感情を育むなど、教育活動全体を通して命の教育に取り組んだ。また、性に関する教育やがん教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室等、子どもたちの健康課題については、子どもたちの発達の段階に応じて、体育や保健体育の教科を中心に養護教諭や栄養教諭などとも連携し、学校の教育活動全体を通じた健康教育を実施した。養護教諭により保健日より等を発行し、児童生徒だけでなく、保護者に対しても健康教育の啓発を行った。

② 体力の向上

学校体育では、体育や保健体育の授業及び運動部活動、スポーツ行事など、学校教育活動全般を通して、子どもたちが運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うものとして充実を図ってきた。令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を講じながら各校で工夫して、児童生徒一人ひとりがそれぞれの能力と適性に応じて、運動の課題を自ら解決することによって運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動の技能を高めることができるように授業づくりを進めた。

また、「三重県児童生徒の体力・運動能力調査」については、調査対象の児童生徒だけでなく、全学年の児童生徒に対し体力測定を実施して、早期からの子どもたちの体

力向上に向けた取組を行っている。

さらに、運動部活動においては、菰野町部活動ガイドラインに基づいた適切な運営と効果的な指導のもと、学校生活に豊かさをもたらしることができるよう進めてきた。令和4年度は、両中学校に4名の部活動指導員を配置し、子どもたちに対して専門的な指導を充実させることができた。また、部活動の地域移行を先行的に実施する地域運動部活動推進事業を受け、NPO 法人元気アップこものスポーツクラブに休日の部活動を一部移行し、地域と連携した持続的な運動機会の確保・充実に取り組むことができた。

③ 食育の推進

望ましい食習慣の形成、食に関する正しい知識の習得、さらにはその知識に基づいて食品の品質および安全性について自ら判断できる能力の育成を図った。また、栄養教諭などを中心に、校内で「食に関する指導」の計画を立て、学校教育全体を通して望ましい栄養や食事の摂り方、食に関する正しい知識等、指導内容の充実を図った。

令和4年度も菰野小学校、朝上小学校に栄養教諭を配置し、所属校が属する中学校区のすべての小中学校も担当し、小学校1年生から中学校3年生までのそれぞれの発達段階に応じた食育指導を担当や養護教諭と連携して実施した。

また、小学校では給食だよりを定期的に発行し、児童だけでなく保護者に対しても食育の啓発等に取り組んだ。

その他には、令和3年度に菰野町学校給食検討会より提出された小中学校給食の在り方検討結果報告書の内容を踏まえ、今後の小中学校給食事業の方向性や行程等を示すことで、適切な事業実施につなげていくことを目的として、菰野町学校給食基本構想（案）を策定した。この基本構想（案）において、本町における学校給食の基本理念の一つに食育の推進を定めており、学校給食を通じて食の大切さを学習でき、食育の推進につながる施設の整備に向けて検討を行った。

(4) 信頼される学校づくり

① 地域とともにある学校づくりの推進

菰野町においては、平成29年度より町内すべての小中学校でコミュニティ・スクールをスタートさせた。

菰野町学校教育指導方針の一つである「地域とともにある学校づくり」を基本として、各学校で地域性や子どもたちの状況に応じた特色ある学校経営がなされるよう、各校の学校経営方針を学校づくりビジョンに位置づけている。学校づくりビジョンは、学校だよりや各校のホームページ等を活用して公開している。また、児童生徒や保護者、教職員を対象とした学校評価についても同様に情報公開を行っている。

学校マネジメントシステム（学校自己評価と学校関係者評価）やコミュニティ・スクール等を活用することで、保護者や地域住民が学校運営に参画する機会を増やしている。さらに学校公開週間を通して日頃の教育活動を広く公開するとともに、地域の人材を活用した外部講師（ゲストティーチャー）を教育活動の中に取り入れたり、中学生が地域のふれあいまつり等にボランティアとして参加したりするなど、地域と学校の双方向の連携を図り、地域に信頼される「地域とともにある学校づくり」に努めた。各学校においては、これまでの地域と連携した取組が組織的に活動できるようになり、これらの取組を通して地域の方々や児童生徒にとってよい刺激となるなど、学校品質の向上につなげることができた。

また、子どもたちの登下校の安全確保のために、学校とPTA等が協力して通学路点検を行った。さらには、教育委員会や関係行政機関、警察と連携して登校時の見守り

等を実施した。

② 教職員の資質向上とコンプライアンスの推進

日常的に OJT による人材育成を行い、授業の進め方や生徒指導のあり方等の具体的な課題について同僚との議論を通して互いの力を磨こうとする「育てる文化」をつくりながら教職員としての資質の向上を図った。また、教職員同士の対話を重視し、互いに認め合える職場づくりをめざすとともに、学校の課題を共有し解決していくために、組織として対応する教職員集団を育成し、学校組織の活性化及び同僚性の構築を図った。

教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保に関して、「教職員向けコンプライアンス・ハンドブック」や「コンプライアンス・ミーティング研修資料について」（ともに県教委資料）を活用した校内研修等による教職員の意識改革を促している。

教職員の授業力の向上については、学力向上アドバイザーを町単独で2名配置し、各校の要請に応じて派遣を行っている。学習者主体の考え方に立ち、児童生徒の基礎的かつ基本的な知識の習得の徹底と、児童生徒が「できた」という実感を持てる授業づくりのための支援を進めている。

③ 学校における働き方改革の推進

総括安全委員会において、前年度の時間外在校等時間などの分析結果をもとに、全校での総勤務時間の縮減の取組を行っている。「定時退校日の設定」「菰野町部活動ガイドラインに則った）部活動休養日の設定」「会議時間の短縮」のような取り組み目標であったり、「年に1日分の休暇の取得日数の増加」や「時間外労働者数0人」などの具体的な数値目標を掲げたりしている。また、全校に、学校電話の「休日・夜間モード設定」を導入し、勤務時間外の教職員の負担軽減を進めている。これらの取組は、学校を通じて各家庭にプリントを配付することで、保護者の理解を得ることに努めている。

業務内容の改善取組としては、校務支援システム（C4th(シーフォース)）を活用することにより、校務で取り扱うさまざまなデータを電子化し、校務の情報化を図ることで、名簿や成績表及び保健管理等を取り扱う時間の削減など、一定の定量的効果を上げることができている。

教職員の指導のための時間の確保として、各学校の職務内容や職場環境を把握し、教職員による日常的な児童生徒との関わりや、教育相談等を定期的に行える職場づくりに努めた。また、教員の業務負担軽減のため、スクールサポートスタッフの全校配置や、生徒指導及び不登校支援対応として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの各校への配置、図書館司書の全校への訪問時間や回数を増やすなど、専門職種の学校への導入を積極的に推し進め、児童生徒と向き合う時間が生み出せるようにサポートしている。

④ 子どもたちの安全・安心の確保

新型コロナウイルス感染症に対する長期的な対応が見込まれる中でも、子どもたちの教育を受ける権利を保障していくために、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を持続していくよう努めた。

子どもたちを取り巻くあらゆるリスクを想定し、家庭や地域とも連携した安全対策の確立と、教職員の危機管理意識や危機管理能力の向上を図り、あらゆる教育活動の中に安全教育（生活安全〈防犯を含む〉教育、交通安全教育、防災教育）を位置づけることで、子どもたち自らが危険を予測したり回避したりする力を身に付けられるよう努めた。

施設整備事業としては、小中学校非接触水栓取替及び菰野小学校仮設校舎の設計、設置を行った。

また、各小中学校において維持管理上必要な修繕を適宜行った。

その他には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、昨年度に引き続いて、感染症防止に役立つアルコール消毒薬等の消耗品を充実させるなど、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう努めた。

(施設整備事業の概要)

工事名	請負業者	請負金額	工期	工事概要
菰野小学校他4校 非接触水栓取替工事	有限会社 内田設備	24,453,000円	自 R4.6.24 至 R5.3.31	非接触水栓取替
菰野中学校他1校 非接触水栓取替工事	山川設備工業 有限会社	9,669,000円	自 R4.6.24 至 R5.3.31	非接触水栓取替
菰野小学校仮設校舎 設計業務委託	藤川設計 株式会社	3,256,000円	自 R4.6.3 至 R4.9.30	工事設計
菰野小学校仮設校舎 賃貸借	オリエントハウス 株式会社	48,796,000円	自 R4.11.15 至 R10.4.30	建方工事 賃貸借 解体工事

[主な修繕内容]

- 菰野小学校 : 遊具塗裝修繕、廊下手洗い修繕、消防設備修繕、漏水修繕等
- 千種小学校 : 遊具塗裝修繕、遊具安全設備修繕、来賓玄関床タイル修繕等
- 朝上小学校 : 遊具塗裝修繕、遊具安全設備修繕、教室照明修繕、消防設備修繕等
- 鶴川原小学校 : 体育館天井断熱材剥落防止修繕、階段手摺修繕、空調設備修繕等
- 竹永小学校 : 遊具塗裝修繕、遊具安全設備修繕、体育館出入口ネット修繕等
- 菰野中学校 : プレハブ倉庫天井修繕、武道場雨漏修繕、北門安全設備修繕等
- 八風中学校 : 北門扉修繕、廊下天井修繕、警備回線修繕、給水管修繕等

【評価と今後の方向】

令和4年4月の菰野町教育大綱及び菰野町教育振興基本計画の策定にともない、令和4年度の菰野町学校教育指導方針について見直しを図った。この方針では、「新しい

時代をたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標として掲げ、「自立と共生」と「信頼」をキーワードに、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の4つを柱にして、菰野町が目指す学校教育の方向性を示している。これに基づき本年度の教育活動を推進した。なお、三重県では、令和4年4月3日をもって「再拡大阻止重点期間」が終了し、現在の新型コロナウイルス感染状況に合わせた感染防止対策に取り組むための「三重県指針」が改定された。そのことも受け、令和4年度の学校運営においては、引き続き必要な感染拡大防止策を講じて持続的な教育活動を行っていくことを原則として進めていた。個別の主な事業についての評価と今後の方向については、以下のとおりである。

学力の定着に向けて、町単独で各学校に少人数指導非常勤講師を配置し、少人数授業を小学校3～6年生の算数科で、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で実施し、児童生徒一人ひとりにきめ細かな個に応じた指導をしてきている。しかし、講師不足が深刻な状況であり、産育休や病休補充の常勤講師が配置できずに、少人数授業の実施に影響が出る場合があるのが課題である。今後も引き続き小学校の算数科と中学校の数学科及び英語科に重点をおいた少人数授業の推進を図り、基礎学力の定着ときめ細かな指導を目指していく。

これまで「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」「CRT 標準学力検査」を通して、各学校で学力調査の結果を分析し、課題を明らかにして、授業改善に取り組んできた。また、学年末には取組の検証も行った。「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」については、今後も調査結果の分析を実施し、授業改善につなげられるようにしたい。また、調査結果については経年推移からも分析し、有効に活用していく。

各校に示している「菰野町学校 ICT 教育推進計画」に基づき、導入した学習者用デジタル教科書等の効果的な活用や、情報モラル教育の充実を図ることで、ICT 環境を安定的に維持することができるよう取組を推進していく。

特別支援教育については校内特別支援委員会の中で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を推進するために、個別の教育支援計画や指導計画を作成して、保護者や関係機関との連携を図り、児童生徒の指導及び支援にあたってきた。就学前、小学校、中学校と途切れのない支援体制を整えるため、子ども家庭課との連携を強めるとともに、町内2名の特別支援教育巡回コーディネーターを各学校からの要請に応じて派遣し、就学相談等の充実を図ってきた。今後も、途切れのない支援体制の整備、関係機関との連携を充実させる。また、障害者差別解消法を受け、今後も学校現場における合理的配慮の提供についても各校と協議しながら取組を進めていく。令和2年度に竹永小学校に開設した通級指導教室「ほっとルームたいよう」については、通級指導担当教員の発達障害のある児童への指導や支援に係る専門性の向上を図りながら指導や相談体制の維持している。今後は通級教室の増設も見据え、ニーズ調査に取り掛かる必要があると考えている。

外国語教育については、ALT（外国語指導助手）を活用し、小学校における外国語や外国語活動の授業力向上を推進する。

幼児教育については、これまで進めてきた CLM（チェック・リスト・イン三重）や個別の指導計画、パーソナルカルテ（菰野町版）等の取組も活用し、保育園、幼稚園、こども園、小中学校の連携をさらに深める。また、今後は、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、子ども家庭課と連携しながら、園と小学校の子どもたちの具体的な姿をもとに教育方法や指導計画について意見交換をする機会等を設け、園と小学校との円滑な接続を一層図るよう努めていく。

三重県教育委員会人権教育課と連携し、菰野中学校校区において取組を進めた「子

ども支援ネットワーク・アクション事業」等の事業を通して、人権感覚あふれる学校づくりの推進を図った。町内の不登校児童生徒数については、令和4年度は小学校で23名の増加、中学校で28名の増加となった。不登校の要因は様々であるが、依然として不登校率が高い状況が続いていることは菰野町にとって大きな課題であると言える。学校の支援室や放課後登校、菰野ふれあい教室での学習を通して、自己肯定感や自尊心の育成を図り、徐々に自己実現に向けての成果を上げている子どももいるが、不登校及び不登校傾向が長期化してしまっている児童生徒もいる。不登校になってからの対応とともに、不登校の入り口の段階での未然防止の取組に視点を当てることも大切にしていきたい。子どもたち一人ひとりの状況に応じた多様な学びの場の提供が求められるなか、引き続き不安や悩みを受け止められる体制作り（教育相談の充実、「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（hyper-QU調査）」等の取組、カウンセラー等の配置、教職員のカウンセリングマインド研修等）の充実を進める。

読書活動の推進については、一斉読書の取組、図書標準数達成に向けての書架整備、家庭での読書の啓発など読書活動の充実に取り組んできている。今後も、家庭、図書館司書と積極的に連携し、学校図書館の環境整備や家庭読書を推進していきたい。

体力向上については、今後も、町内すべての小中学校において体力テストを実施し、その傾向と課題を分析しながら、基礎体力の向上に向けて取組を進めていく。また、中学校部活動については、引き続き菰野町部活動ガイドラインに基づいた適切な運営を行うとともに、部活動の段階的な地域移行について継続的に協議を重ね、取組を推進していくことが必要である。

コミュニティ・スクールについては、各校での取組が充実してきている。今後も各校や地域の特色を生かした事業を進めていく。

学校施設、設備の充実については、今後も児童生徒の利便性、快適性の向上に向けた対策を継続して進めていく。また、令和4年3月から学校電話の休日・夜間モード機能の設定を導入し、教職員の長時間労働を軽減し、教育の質の向上をめざす取組を実施している。

2 社会教育

(5) 地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実

①家庭の教育力の向上

家庭教育講座として、防災ラジオなどを通じて啓発活動を行った。

②地域における青少年活動の推進

青少年健全育成を推進するため、地域における非行防止の環境づくりや補導活動等を支援した。

③現代社会を生き抜く青少年の健全育成

青少年育成町民会議を中心とした非行防止パトロール、あいさつ運動等を支援し、補助金を活用することで活動の場を広げ、町ぐるみでの青少年育成活動を行った。

○青少年活動支援推進事業

事業名	期日	対象	場所	人数
コボンタフェスティバル	7月3日	小中学生	町民センター ホール	250
親子プロギングイベント	2月26日	一般	菰野町庁舎 町民センター周辺 (町民会議事業)	32名

書初め大会	1月7日	幼稚園児 小中学生 一般	体育センター	68名
新春たこあげ大会	1月7日	親子	朝上小学校 (町民会議事業)	140名
育成者指導者研修会 家庭教育研修会	2月22日	一般	町民センター ホール	90名

(6) 活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進

①生涯学習推進体制の確立

新型コロナウイルス感染症の影響により、よもやま歴史教室や人権コンサート、かもしかライフカレッジ等、生涯学習の振興を図るための講座や講演会などを実施可能な範囲で行った。また、外国語指導助手により、隔月で国際交流会を開催し、町内における国際交流活動を推進した。

○生涯学習推進事業

よもやま歴史教室 2022

[主催] 菰野町/よもやま歴史サークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	6月25日 14:00～	シベリア抑留体験を語る～ 奪いとられた我が青春の歳 月～	語り部：大積敏夫氏(伊 勢) 中村玄之助氏(四 日) サックス奏者：一尾 郁美氏	150名
2	7月16日 14:00～	昭和期の内閣と戦争指導体 制～日本は、なぜ戦争を起こ したのか～	大同大学講師 関口哲矢 氏	62名
3	9月24日 14:00～	(通算 250 回記念講座) 考古学で問う天皇陵古墳 ～箸墓古墳・大山古墳・野口 王墓古墳～	東海学センター理事長 今尾文昭氏	60名
4	12月17日 14:00～	徳川という男～徳川家康の 真実～	歴史研究家 (Eco&Cost 研究所 主宰) 平尾栄滋氏	50名
5	1月21日 14:00～	平安朝の女流文学史～紫式 部・清少納言ら、雅やかな王 朝文学を紐解く～	日本文学研究家 河原徳 子氏	66名
6	2月18日 14:00～	日本古代のマイナンバー制 度～戸籍・計帳と疫病対策～	愛知県立大学教授 丸山 裕美子氏	40名

かもしかライフカレッジ 2022 [主催]菰野町/かもしかライフサークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	6月26日 14:00～16:00	しあわせに生きる魔法 ～生きてるだけで百点満点～	林 みち子	48名
2	7月10日 14:00～16:00	ふるさと菰野の方言	諸岡 時次	24名
3	8月19日 19:00～21:00	夏のほしぞら観望会	星空案内人 星のソムリエグループ	102名
4	8月28日 14:00～16:00	Gardening Open Lecture	May Gardens ガーデンド デザイナー 柵山 直之	33名
5	12月18日 第1部 10:30～12:00 第2部 14:30～16:00	ウィンターコンサート	三重ユナイテッド ウィンドオーケストラ	257名 323名
6	1月29日 14:00～16:00	影の基本から学ぶ写真の楽し さを再発見 ～写真撮影は一 期一会～	フォトグラファー JOHN NG	19名
7	2月26日 14:00～16:00	根付と住職、二足の草鞋 ～伝 統工芸伊勢根付を知っていま すか～	伊勢根付職人 横山 大 真 先生	28名
8	3月19日 14:00～16:00	豊かな森を未来に残すための NPO 法人活動と森林環境教育	森林施業 認定NPO 法人 「森林の風」代表 瀧口 邦夫	14名

○教育委員会主催 人権教育事業

事 業 名	期 日	場 所	人 数
各地区公民館 ・人権コンサート ・人権講演会	7月～1月	各地区公民館 各地区コミュニティセンター	中止
人権コンサート	12月4日	町民センターホール	82名

○教育委員会主催 文化事業

事 業 名	期 日	場 所	人 数
菰野寄席		菰野地区 コミュニティセンター和室	中止
町民盆踊り講習会		菰野地区 コミュニティセンターホール	中止
成人式	1月8日	菰野町町民センターホール 菰野町体育センター	346 (2部制)

プロの音楽家による 課外授業アウトリーチ	2月9日	菰野小学校	小学校 4年生
	12月6日	鶯川原小学校	
	2月13日	朝上小学校	
	1月19日	千種小学校	

○教育委員会支援文化事業

事業名	期日	場所	人数
第26回菰野町俳句大会	7月9日	菰野町町民センターホール	57名 約700句
第13回三滝川燈火祭り & 第35回町民盆踊り大会	8月	三滝川河川敷周辺	中止

○国際交流事業（異国文化とふれあう）

事業名	期日	場所	人数
Uncommon Phobias いろいろな恐怖症	5月11日	菰野町庁舎4階会議室	9名
Coming of Age Celebrations	7月13日	菰野町庁舎4階会議室	7名
世界のおとぎ話	9月14日	菰野町庁舎4階会議室	19名
世界のマスコットキャラクター	11月9日	菰野町庁舎4階会議室	19名
おもしろい動物	1月11日	菰野町庁舎4階会議室	15名
珍しい食べ物	3月8日	菰野町庁舎4階会議室	12名

②公民館機能の充実

生涯学習の推進を図るため、町公民館や地区公民館において各種学級、講座を開催するとともに、公民館を趣味のサークルの場として、町民センターや南部公民館、地区公民館等の施設を町民に開放した。

○公民館教室及び講座

	教室、講座名	期間	日時	学習内容	講師名	会場	人数
1	文学講座	5月 ～ 3月	第2・3・4 金曜日の いずれか 13:30～ 15:00	『今昔物語集』 を読む ～今は昔』のドラマ が始まる～	三重県生涯学 習 センター講師 河原徳子	町民センター 会議室	50名
2	親子 ロボット 講座	7月 ～ 3月	第2・3・4 土曜日の いずれか 9:30～ 11:00	ロボット製作を通 して、ものづくりに 必要な 知識、技術を 身につける	株式会社 ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	親子 15組

3	ガーデニング講座	5月 ～ 12月	第3木曜日 9:30～ 11:00	お花やハーブのある暮らしをしてみたい方へ	メイガーデンズ ガーデン デザイナー 柵山 直之	町民センター 会議室	20名
4	ソーシャルメディア講座	6月 ～ 12月	第1・2・3月曜日のいずれか 18:30～ 20:00	ソーシャルメディアの活用等初歩的な内容	有限会社 ザワン ノブ横地	菰野町庁舎 4階 会議室等	9名
5	びっくり理科実験教室	8月 ～ 10月	第2・3土曜日のいずれか 13:00～ 14:30	様々な理科実験を行い、“理科博士”を目指す	ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	13名
6	親子DIY教室	7月 ～ 8月	土曜日 13:30～ 15:30	作りたいものを自分で設計して親子で一緒に組み立てる。	株式会社 館建築 館 巧	南部公民館 育成センター	6組
7	はじめてのドローン教室	7月23日 7月30日	9:00～ 10:30 10:30～ 12:00	基本的なルールを学び、安全で楽しい操作を覚える。	有限会社 ザワン ノブ横地	南部公民館 育成センター	8組
8	和太鼓教室	8月21日 8月30日	10:00～ 12:00	和太鼓演奏	鬼神衆	南部公民館 町民センター	6組

③図書館サービスの充実

当館は、平成20年4月11日に開館し、現在15年目を迎えており、町民をはじめ近隣市町の利用者の方々の生涯学習の場として、中学生、高校生から高齢者まで幅広い方々に利用いただいている。また、児童書、絵本、紙芝居から育児に関する資料を児童書架に配置するとともに、絵本の読み聞かせ、英語による絵本の読み聞かせ、菰野町に伝わる民話語り、パネルシアターによる読み聞かせ、朗読劇等を体感してもらっている。

令和4年度実績について、新型コロナウイルス対応による休館を行わずに済んだ年度であり、図書開架室の年間入館者数23万5千人に対し、36万3千冊の図書資料の提供を行った。

施設の運営について生涯学習成果発表の場の提供や催事の開催等、滞在交流型図書館ではあるが密を避けるために利用の制限を継続したが3月中旬に緩和を行った。またイベントにおいては館外大規模イベントへの参加を行わず館内イベントを増加させた。

学校図書館への図書館司書巡回支援を継続することで、児童生徒の読書関心を高める取組みを行っている他、小学生限定の『子ども司書』の卒業生を対象に、中学生以上も図書館に関わってもらうための組織『リトルライブラリアン』が活動できる場を設けている。

ア) 図書館事業

事業名	開催日	時間	場所	備考	参加数
子ども読書週間 図書館ビンゴ	4月23日(土)～ 5月12日(木)		開架室	借りた本の種類でのビンゴ ゲーム 達成でしおり等プ レゼント	57人
ボランティアのための 絵本読み聞かせ教室	4月27日(水)	10:00～ 11:30	催事室	絵本の読み聞かせの方法 や知識についてのボラン ティア初心者向け講座	19人
リトルライブラリアン	4月～3月 計12回	15:00～、 イベント時 を除く	催事室他	小学6年生対象の子ども 司書を卒業した中高生に 読書推進リーダーとして活 躍のできる場を提供	登録者 20人
子どものための絵本 ライブ&折り紙ラリー	5月5日(祝)	折り紙ラリー 9:30～	児童開架 スペース	児童開架書架内のチェッ クポイントをまわり、折り紙 を集めるイベント	32人
		絵本ライブ 10:30～	おはなし ルーム	職員による、おはなし会 (読み聞かせ会)	17人
夏の読み聞かせラリー	7月～8月		おはなし ルーム	ボランティアによる、おは なし会(読み聞かせ会)、 27回実施	各回 約10人
絵本のカバーでペーパ ーバックを作ろう!	7月29日(金)	10:00～ 11:30	催事室	絵本のカバーを再利用し てバックを作る講座	14人
図書館探検隊員	7月31日(日)	13:00～ 14:30	図書館内	普段、入れない書庫やブ ックポストの裏側などを見 学するイベント	7人
夏休みワクワク工作	8月3日(水)	10:00～ 11:30	催事室	ボランティアによる紙を使 った小学生向け工作教室	18人
子ども司書育成講座	8月～12月 計8回	13:00～ 16:00	図書館内	小学6年生を対象とする図 書館業務体験講座等	9人
スカベンジャーハント	8月23日(火)	14:00～ 15:00	図書館内	クイズ方式で図書館内の 本を探し当てるゲーム	24人
ブックコート体験会	9月16日(金)	10:00～ 10:45	催事室	自分の本にコート材をかけ る体験会	8人
秋の読書スタンプラリー	10月8日(土)～ 11月27日(日)		開架室	対象者 図書館利用者 応募人数 中学生以上:45人 小学生以下:62人	107人
大人のための図書館見学	10月14日(金)	10:00～ 11:00	催事室	本の分類、並び方、リクエ スト方法などを伝え、活用 方法をわかりやすく説明	8人
大人のための朗読会 おはなしの小箱	10月18日(火)	10:00～ 11:30	催事室	朗読アーティストによる大 人向け朗読会	20人

リサイクルフェア	10月29日(土)	9:30～ 16:00	催事室	雑誌等リサイクルフェア	213人
図書ボランティアのための壁面飾り講座	11月2日(水)	9:30～ 11:00	催事室	学校図書室のクリスマスの壁面飾り講座	14人
青い目の人形～ウォーレンが見てきたこと～	11月11日(金)	10:00～ 11:00	催事室	図書館2階郷土資料コーナーに展示されている人形の日米交流の歴史の講演	6人
ほがらか絵本畑 しんちゃんの「読みあそびライブ」	12月25日(日)	10:00～ 10:40	催事室	幼児～小学校3年生と保護者を対象に読み聞かせを交えたイベント	約100人
絵本カルタ会	1月7日(土)	10:30～ 11:00	催事室	絵本の内容を読み札、絵本をカルタに取り合うイベント	7人
まが玉づくり	3月11日(土)	10:00～ 11:30	催事室	石を削ってまが玉(アクセサリー)を作る講座	30人

イ) 催事室利用状況

開催日、期間	行事名	主催者名
4月3日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
4月8日(金)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
4月19日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
4月27日(水)	ボランティアのための絵本読み聞かせ講座	菺野町図書館
5月1日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
5月25日(水)	こもりぶサポーター本の修理	菺野町図書館
6月1日(水)	CTYによる郷土資料関係取材撮影	コミュニティ振興課
6月5日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
6月24日(金)	学校図書館ボランティア交流会	菺野町図書館
7月1日(金)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
7月3日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
7月29日(金)	ペーパーバック作り	菺野町図書館
7月31日(日)	こもりぶサポーター図書館探検隊	菺野町図書館
8月3日(水)	夏休みワクワク工作	菺野町図書館
8月7日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
8月14日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
8月21日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
8月28日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
9月4日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
9月10日(土)～11日(日)	絵画絵本コンクール作品展示	絵本の町づくり文化プロジェクト実行委員会
9月16日(金)	ブックコート体験	菺野町図書館

10月2日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
10月6日(木)	こもりぶサポーター作業	菺野町図書館
10月9日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
10月18日(火)	大人のための朗読会おはなしの小箱	菺野町図書館
10月23日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
10月27日(木)	図書館協議会会議	菺野町図書館
10月29日(土)	リサイクルフェア	菺野町図書館
11月2日(水)	図書ボランティアのための壁面飾り講座	菺野町図書館
11月3日(祝)	ボランティア 修理作業	菺野町図書館
11月6日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
11月11日(金)	青い目の人形〜ウォーレンが見てきたこと	菺野町図書館
11月13日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
11月18日(金)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
12月4日(日)	子ども司書育成事業、リトルライブラリアン	菺野町図書館
12月11日(日)	こもりぶサポーター会議 修理作業	菺野町図書館
12月16日(金)~18日(日)	書道作品展示	花墨会
12月24日(土)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
12月25日(日)	ほがらか絵本畑「しんちゃんの読みあそびライブ」	菺野町図書館
1月7日(土)	絵本カルタ会	菺野町図書館
1月15日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
1月20日(金)	こもりぶサポーター作業	菺野町図書館
2月5日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
2月9日(木)	こもりぶサポーター作業	菺野町図書館
2月24日(金)	図書館協議会会議	菺野町図書館
3月5日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
3月11日(土)	まが玉づくり	菺野町図書館
3月16日(木)	こもりぶサポーター作業	菺野町図書館
3月18日(土)	みつけ！総会	菺野町図書館
3月25日(土)	民話がり総会	菺野町図書館

※こもりぶサポーター作業はイベント準備、ブックコート、本の修理などを実施

ウ) ギャラリー利用状況

開催日、期間	行事名	主催者名
4月23日(土)~24日(日)	パンジーヴィオラ展	河合 真理
7月3日(日)~10日(日)	パステルアート展	斎藤 仁美
8月6日(土)~16日(火)	平和祈念展(パネル展示)	総務課
8月25日(木)~27日(土)	広島の高校生が描いた「原爆の絵」展示	新日本婦人の会
9月3日(土)~8日(木)	救急ポスターコンクールの作品展示	消防署
9月13日(火)~18日(日)	貯金箱コンクール in 菺野町	菺野郵便局
9月21日(水)~10月30日(日)	鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンポスター作品展示	コミュニティ振興課

11月2日(水)～15日(火)	健康ポスター展示 社会を明るくする運動ポスター展示	健康福祉課
11月25日(金)～12月11日(日)	鈴鹿山麓かもしかハーフマラソン写真作品 展示	コミュニティ振興課
11月16日(水)～11月23日(祝)	ええやん里親 パネル展示	子ども家庭課
12月16日(金)～18日(日)	書道作品展示	花墨会
1月7日(土)～12日(木)	全国孔版画愛好者による年賀状と新春俳 句合同展	大羽根園孔版画同好会
3月1日(水)～7日(火)	春の火災予防運動中の予防広報	消防本部予防課
3月24日(金)～29日(水)	こころのバリアフリー展示会	健康福祉課

エ) 令和4年度図書館貸出等の状況

開館日数	289日	新規登録者	1,220人
貸出人数	116,762人	貸出冊数	363,177冊
購入冊数	5,583冊	受入冊数	7,410冊

登録者数、蔵書冊数及び購入冊数（令和5年3月31日現在、購入冊数は累計）

登録者数	39,466人	購入冊数	120,021冊
蔵書冊数	185,056冊	※蔵書冊数は、図書資料、AV資料、雑誌 の総数	

オ) 研修等の受け入れ実績

①職場体験学習

受け入れ日	摘 要	
5月18日(水)～19日(木)	八風中学校	3名
6月9日(木)～10日(金)	保々中学校	4名
6月22日(水)～23日(木)	桜中学校	4名
1月17日(火)～19日(木)	西陵中学校	4名

②各種研修・視察

受け入れ日	摘 要	
8月3日(水)、4日(木)	菰野中学校教諭社会体験研修	2名
8月17日(水)、18日(木)	竹永小学校教諭社会体験研修	3名

③社会見学・施設見学

受け入れ日	摘 要	
10月25日(火)	竹永小学校社会見学	
11月1日(火)	朝上小学校社会見学	
11月15日(火)	菰野小学校社会見学	

④小中学校図書室巡回

学校図書室	巡回	学校図書室	巡回
菰野町立菰野小学校	24回	菰野町立菰野中学校	19回
菰野町立鶴川原小学校	19回	菰野町立八風中学校	19回
菰野町立竹永小学校	20回		
菰野町立朝上小学校	21回	小学校 計	102回
菰野町立千種小学校	18回	中学校 計	38回

⑤ブックトーク訪問(学校授業支援)

実施日	対象学年	学校名
11月1日(火)	1年生	菰野町立千種小学校
6月15日(水)	2年生	菰野町立朝上小学校
11月29日(火)		菰野町立千種小学校
1月12日(木)		菰野町立鶴川原小学校
7月7日(木)	3年生	菰野町立鶴川原小学校
1月19日(木)		菰野町立千種小学校
9月7日(水)	4年生	菰野町立千種小学校

⑥図書室オリエンテーション(学校授業支援)

支援日	対象学年	学校名
4月12日(火)	1年生	菰野町立朝上小学校
4月19日(火)		菰野町立千種小学校
4月20日(水)		菰野町立鶴川原小学校
4月28日(木)、5月6日(金)		菰野町立菰野小学校
5月10日(火)		菰野町立竹永小学校
5月12日(木)、31日(火)	2年生	菰野町立菰野小学校
6月15日(水)		菰野町立朝上小学校
7月14日(木)		菰野町立竹永小学校
11月8日(火)		菰野町立鶴川原小学校
7月7日(木)	3年生	菰野町立鶴川原小学校
6月2日(木)、3日(金)	4年生	菰野町立菰野小学校
6月7日(火)		菰野町立朝上小学校
7月6日(水)		菰野町立鶴川原小学校
5月17日(火)、20日(金)	5年生	菰野町立菰野小学校

⑦蔵書点検支援

支援日	学校名
7月21日(木)	菰野町立菰野小学校
8月25日(木)	菰野町立朝上小学校
7月28日(木)、29日(金)	菰野町立菰野中学校

⑧その他支援

支援日	対象学年	学校図書室	内容
2月3日(金)	6年生	菺野町立菺野小学校	本の紹介用POP作り体験

【評価と今後の方向】

図書資料の収集に努めてきた結果、蔵書冊数は18万5千冊となり、図書開架室の入場者数は開館15年間で延べ434万人を数えた。なお図書開架室に生涯学習室や催事室等を加えた館全体の年間入館者数は31万人を超える。

令和4年度は新型コロナウイルス対応の密対策に実施していた机や椅子の間隔調整や学習室等の入室時間の制限を終了したため、コロナ以前と比較し減少していた入館者数は今後回復が見込まれる。

「第二次菺野町図書館整備基本計画」に基づき、図書館司書による学校図書館巡回支援を行っており、各種の支援活動を継続する。

図書館司書が学校図書館を巡回することで担当教諭や地域の図書ボランティアとの連携として『こもりぶサポーター』の協力を得ている。今後も図書室の環境整備や児童生徒の読書関心を高めるブックトークなど読書支援を継続する。

小学生6年生のみの『子ども司書』に加え、元子ども司書で現在は中高生の生徒による『リトルライブラリアン』を組織化し、大人が読ませたい本ではなく自分たちが友達に教えた本の見点から情報提供やイベントの協力等、運営面の関わりも継続する。

休館は毎週月曜日と第四火曜日、年末年始、蔵書点検期間を休館日としているが祝日と重なる月曜日は開館している。

また、北部子育て支援センター窓口での図書貸出申し込みや返却本の受け取りは図書館遠隔地における図書館サービスとして継続して行い、利用につなげる。

引き続き図書資料の充実にも努めるとともに、生涯学習拠点機能を活かした利用しやすい施設の運営にも努める。

IV 評価委員会の意見

1 教育委員会の運営

- ・社会教育関係の事務がコミュニティ振興課へ移行された。子どもの教育に関する部分だけを見ると、今までの体制の方が連携を図れるという一面もあるが、マラソンや生涯教育に関する事など、子どもだけでなく広く町民に関わってくるものについては、町長部局で所管する現在の体制の方が町をあげて取り組むという一面もあり、どちらの方が良いということはない。現在の体制の利点を活かし、社会教育行政の強化を図っていく必要がある。
- ・他課との連携に関して述べると、幼稚園関係の事務を子ども家庭課の所管で行うようになってから、子育て支援の面からは子ども家庭課、幼稚園教育の面からは教育委員会と、現在では連携体制がしっかりと確立されている。コミュニティ振興課との連携体制も今後確立していくだろうが、一つ一つ検証していく必要がある。今後の運営に期待している。
- ・給食費の公会計化は、学校教職員の負担軽減のためだけでなく、学校給食費会計の透明性を向上させるために、有効な手段である。また、子どもの健全な食生活のために、安定した質の学校給食を提供していくためにも、学校給食費の公会計化は実施すべきである。

2 学校教育事務事業

- ・全国学力・学習状況調査から、国語科の学力状況に経年的な課題が見られるとの分析結果があるが、その課題を克服していけるような授業づくりを意識する必要がある。また、英語科においては、中学校での受験に向けた英語に、小学校でのコミュニケーションを重視した英語を繋げていくことが大切である。そのために取り組み始めた小学校の英語担当教諭と中学校の英語担当教諭との合同研修会は、お互いに今後意識していくべき視点や注意点などが明確になり、有益な研修となっている。今後もっと深めていく必要がある。
- ・「菰野町授業づくりマスター」により、菰野町独自の教育を打ち出し、一人一人が毎時間の授業を大切にしながら取り組んでいることは、子どもたちの学力向上に繋がっていく。実際に学力調査の結果も、徐々に上がっていると聞いており、今後も「教育のまちこもの」と言われるぐらいになっていくことを期待している。
- ・ICTを活用した授業がどんどん進んでいるが、タブレット端末を使用して学習するところと、従来の紙の教科書を利用して学習するところの使い分けが重要である。また、それを授業に使用する教員の負担を軽減する必要もある。タブレット端末の使用方法などの技術に長けている若い教員と、機器の技術は詳しくないが、授業のどこでどのようにタブレット端末を使用すれば効果的な学びになるのか、授業への有効な活用方法についての明確な指針を持っているベテラン教諭、それぞれの得意な部分を融合して、ICT教育に活かしていく必要がある。
- ・授業に児童生徒一人一台のタブレット端末を取り入れてから2年が経過し、タブレット端末を利用した授業づくりがある程度定着してきている。これからはそれを子どもたちにどのように使わせていくのが、ICT教育推進のポイントとなってくるだろう。
- ・特に自分たち大人にはその傾向が顕著に見られると感じているが、文章を記述する際に誤字脱字が増える、文章の記述能力が衰えるなど、ICT教育が進むにつれ、国語力が低下してきている傾向が子どもたちにも見られているように思う。タブレット端末などを使用することは、今の時代には必要不可欠なこととなってきているが、ICT教育を推進しながらも、子どもたちの学力の基盤となる国語力の維持向上に努めていく必要がある。
- ・いくらタブレット端末を使用して漢字の書き取りや計算ができるようになって、その過程を理解させることが大切である。特に低学年にはタブレット端末での学習だけでなく、具体的な物に触れさせて、自分で確認させることで、例えば物の長さや重さなどを認識させることも必要である。ICT教育は学習を進めるうえでの一つの手段であり、従来の学習の指導にICT教育をどれだけ取り入れていくのが、これからの課題である。
- ・ICT教育もそうであるが、小学校に英語が取り入れられるなど、児童生徒に求められる力がどんどん変化してきている。それに応じた学習指導をしていくことが必要となってきている。漢字の書き順を正確に覚えさせることも大切であるが、これからはそれだけではなく、必要な情報を引き出し、それを上手く活用していく能力が求められる時代になっていくであろう。

3 社会教育事務事業

- ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症がいくらか落ち着きを見せ始めたこともあり、すべて従来どおりというわけではないが、公民館教室や各種講座などが昨年より多く開催でき、有難く感じている。また、公民館教室や各種講座の内容も、「親子DIY教室」や「はじめてのドローン教室」など、はやりの内容を取り入れ、工夫が見られる。生

涯学習の推進を図るために、これからも住民の方々が興味や関心を持っていることを考えながら、より多くの方が参加したいと思えるような、充実した教室や講座の開催を期待する。

- ・様々な各種事業を開催した後、参加人数を把握するだけでなく、今後の事業に活かしていくために、良かった点、改善すべき点などを振り返ることが大切である。そのためには、現在も行っているとのことであるが、参加者にアンケートをとるなどして、参加者の率直な意見を聞くことは、大変有益な方法であり、各種事業の充実に繋がるだろう。

4 図書館事業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中において、たくさんの図書館事業が行われたことは、住民にとって大変有難いことである。感心すべきことであり、今後も継続して実施されることを望む。
- ・子どもたちに本に興味を持たせるためにも、リトルライブラリアンはよい取組である。小学6年生の子ども司書を卒業したリトルライブラリアンの子どもたちが、どうすれば図書館が盛り上がるか、利用者に喜ばれるかなどを自分たちで考え、イベントに参加したり、学校の図書室へ出向いたりしている。本の魅力を子どもたち自身が伝えることができ、子どもたちにとっても非常に有益な事業である。このまま引き続き実施してほしい。
- ・貸し出した図書の分野別の集計を参考にするなどし、小説などの文学のジャンルだけでなく、芸術、自然、歴史や絵本など多岐にわたるジャンルを取りそろえ、蔵書の充実に努めてもらいたい。